

考古学研究室報告

第 44 集

上天草市所在遺跡の調査報告 5

第 1 部 千崎古墳群第 7 次調査報告

第 2 部 桐ノ木尾ばね古墳測量調査報告

2008 年度 考古学研究室の足跡

2 0 0 9

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：千崎丘陵遠景（戸馳島から）
裏表紙写真：千崎古墳群5号墳玄室前壁

序 文

今、文化財保護行政は大きな曲がり角にある。資格制度にかんする議論がにわかに活発になった現実が、そのことを端的に表している。そのような社会情勢のなか、大学はどのような役割を担うのか。考古学の基本を確実に身につけさせることはもちろんだが、それ以上に大切なのは、人間社会のなかをまっとうに泳いでいくことができる人間性を育むことであると私は思う。あえて述べるまでもないことだが。

今年度の発掘調査では、下級生がフィールドマスターを支え続けたという印象が強い。考古学にかんする実力不足などその要因はさまざまあろうが、コミュニケーションにかんする努力不足が大きかったように私は感じる。こうした経験を今後ぜひ生かして欲しい。

さて、2003年度に始めた上天草市千崎古墳群の発掘調査は、今年の夏、ようやく終了のときを迎えた。はじめて千崎古墳群に足を踏み入れたときから、もう6年である。当初はこれほど長くかかわるとは思ってもみなかったが、千崎古墳群に中心軸を置きながら天草諸島、さらには八代海沿岸の古墳について学ぶにつれ、私の大切なフィールドの1つとなっていった。それ以上に、多くの学生がここで発掘調査や合宿生活を経験し、製図や写真の焼き付け、報告文の作成に苦勞し、そして報告書完成の喜びを知って巣立って行ってくれたことが何よりの財産となった。

しかし、これで千崎古墳群の調査が完全に終了したわけではない。今後、これまでに発行した5冊の概報を総括し、さらには1955年に行われた第1次調査時の記録を掘り起こして、「千崎古墳群といえばコレ!」というような正式報告書を作成しなければならない。それが達成されたとき、はじめて千崎古墳群の調査が完了したといえるだろう。千崎世代ともいうべき学生・卒業生諸君の協力をぜひお願いしたい。

今年度も、上天草市教育委員会および地元維和島の皆様をはじめ多くの方々から、発掘調査や合宿生活、整理作業を行うにあたって、これまでと変わりのないさまざまなご協力、ご配慮をいただいた。心より感謝の念を捧げたい。

2009年3月1日

杉 井 健

上天草市所在遺跡の調査報告 5

例 言

1. 本書は熊本県上天草市所在遺跡を対象とした考古学調査の報告書である。その内容は、千崎古墳群の実測・発掘調査報告、桐ノ木尾ばね古墳の測量調査報告からなる。

2. それぞれの遺跡・調査についての詳細は以下の通りである。

【千崎古墳群】

- (1) 千崎古墳群は、熊本県上天草市大矢野町維和千崎3080・3081番地他に所在する。
- (2) 今年度の調査は第7次調査にあたり、本書の内容はそれに関するものである。
- (3) 調査期間は2008年8月25日から9月23日までの計30日間である。
- (4) 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、上天草市教育委員会の協力を得て実施した。調査には科学研究費補助金（基盤研究C、研究代表者杉井健）の一部を使用した。
- (5) 調査担当者は杉井健（熊本大学文学部准教授）と一本尚之（同社会文化科学研究科大学院生）である。
- (6) 千崎古墳群の調査はこれまでに6次にわたって行われているが、以下にその調査年月と調査主体を記す。

第1次調査	1955年8月、9月	熊本県立玉名高等学校考古学部
第2次調査	2003年4月、2004年3月、4～5月	大矢野町教育委員会・上天草市教育委員会
第3次調査	2004年8～9月	上天草市教育委員会
第4次調査	2005年9月	上天草市教育委員会
第5次調査	2006年8～10月	上天草市教育委員会
第6次調査	2007年9～10月	熊本大学文学部考古学研究室
- (7) 千崎古墳群に関するレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標（2系）の北を示す。
- (8) 横穴式石室の左右は、羨道から玄室をみた場合での左右で示す。
- (9) 報告書抄録に示した北緯と東経は、測量基準点SE01の世界測地系による数値である。
- (10) 土層名の色調は『新版標準土色帖』によった。
- (11) 10号墳箱式石棺の北側蓋石欠損部とその破片の接合作業は、株式会社葵文化（代表取締役：荒木祐一郎）のご厚意により実現することができた。
- (12) 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関から多くのご協力とご援助を賜った。
鬼塚正二・鶴田伸二（上天草市教育委員会）、山崎勝安（伐採）、逸見泰久（熊本大学合津マリンステーション：宿舎）、高木恭二（宇土市教育委員会）、渡邊一徳（熊本大学教育学部地学教室）、福田正文、熊本古墳研究会、熊本県立天草青年の家、維和島住民の方々、上天草市大矢野公民館
- (13) 調査参加者は以下の通りである。
甲元真之・木下尚子・杉井健（熊本大学教員）、神川めぐみ（同社会文化科学研究科博士課程2年生）、有馬絢子・山野ケン陽次郎（同文学研究科修士課程2年生）、一本尚之・高濱美來（同社会文化科学研究科修士課程1年生）、長田幸子・高松あゆみ・堤絵莉子・弘中正芳・瀧崎奈緒美（同文学部4年生）、梶友香里・田上慶・筒由香里・松崎友理（同文学部3年生）、赤尾萌〔整理作業〕・赤崎恵・汐除あずさ・柴田亮・田中麻里子・中原有彩・松尾真太郎（同文学部2年生）、仙波靖子・宮本千恵子（同卒業生）
- (14) 写真撮影については、調査参加者全員が担当した。

【桐ノ木尾ばね古墳】

- (1) 桐ノ木尾ばね古墳は、熊本県上天草市大矢野町維和桐ノ木に所在する。
- (2) 桐ノ木尾ばね古墳の調査は、本書で報告するもの以外に、これまでも1955年および2006年の2度行われている。それらを含めて、以下のように調査回数（調査年月・調査主体）を整理する。

第1次調査	1955年8月、9月	熊本県立玉名高等学校考古学部
第2次調査	2006年8～10月	上天草市教育委員会
第3次調査	2007年4～6月	熊本大学文学部考古学研究室
第4次調査	2008年10～12月	熊本大学文学部考古学研究室
- (3) 本書の内容は第3・4次調査に関するものである。
- (4) 調査期間は第3次調査が2007年4月20日から6月3日までのうちの計7日間、第4次調査が2008年10月25日から12月12日までのうちの計5日間である。
- (5) 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、上天草市教育委員会の協力を得て実施した。

- (6) 調査担当者は南健太郎（熊本大学社会文化科学研究科大学院生）である。
- (7) 桐ノ木尾ばね古墳に関するレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標（2系）の北を示す。
- (8) 報告書抄録に示した北緯と東経は、測量基準点K1の世界測地系による数値である。
- (9) 調査および整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関から多くのご協力とご援助を賜った。
鬼塚正二・鶴田伸二（上天草市教育委員会）、小林勝子（調査地土地所有者）、岩本美敏（上天草市大矢野町維和塩浜地区長）、高木恭二（宇土市教育委員会）、維和島住人の方々
- (10) 調査参加者は以下の通りである（所属は当時）。

第3次調査

南健太郎（熊本大学社会文化科学研究科博士課程2年生）、神川めぐみ（同社会文化科学研究科博士課程1年生）、仙波靖子（同文学研究科修士課程2年生）、新秀文・有馬絢子・山野ケン陽次郎（同文学研究科修士課程1年生）、倉元慎平（同文学部4年生）、高松あゆみ・堤絵莉子・弘中正芳・瀧崎奈緒美・松嶋倫代（同文学部3年生）

第4次調査

南健太郎（熊本大学社会文化科学研究科博士課程3年生）、神川めぐみ（同社会文化科学研究科博士課程2年生）、有馬絢子・山野ケン陽次郎（同文学研究科修士課程2年生）、一本尚之（同社会文化科学研究科修士課程1年生）、堤絵莉子・弘中正芳・瀧崎奈緒美・松嶋倫代（同文学部4年生）、田上慶・筒由香里・松崎友理（同文学部3年生）、赤崎恵・汐除あずさ・柴田亮・田中麻里子・中原有彩（同文学部2年生）

- (11) 写真撮影は南健太郎が担当した。

- 3. 本書のうち、第1部の編集は杉井健の監修を受けて一本尚之・高濱美來が、第2部の編集は南健太郎が担当した。執筆分担については執筆者名をそれぞれの文末に示した。

本文目次

第1部 千崎古墳群第7次調査報告	1
一 熊本県における古墳出土玉類	3
1. はじめに	3
2. 熊本県内古墳出土玉類	3
3. まとめ	4
二 調査経過	8
1. 過去の調査(第1次～第6次調査)	8
2. 第7次調査	9
三 5号墳の調査成果	10
1. 過去の調査経過(第2次～第6次調査)	10
2. 調査区の設定と調査経過	10
3. 横穴式石室の構造	11
4. 前庭部構築と最終閉塞の状況	19
四 10号墳の調査成果	20
1. 過去の調査と今年度の調査目的	20
2. 調査成果	21
五 25号墳の調査成果	22
1. 石棺の現状と過去の調査	22
2. 調査区の設定と調査経過	22
3. 箱式石棺の構造	22
4. 天草地域の箱式石棺	25
六 まとめ	26
1. 調査成果	26
2. 古墳群の評価	27
第2部 桐ノ木尾ばね古墳測量調査報告	29
一 位置と歴史的環境	31
1. 桐ノ木尾ばね古墳の位置	31
2. 天草地域における古墳築造の動態	31
二 調査経過	32
1. 過去の調査	32
2. 第3・4次調査	32
三 測量調査の成果	33
1. 桐ノ木丘陵の地形と現状	33
2. 古墳の立地と旧地形の復元	33
四 まとめ	37
1. 古墳立地からみた桐ノ木尾ばね古墳の性格	37
2. 熊本県地域の古墳築造動向からみた桐ノ木尾ばね古墳	37

図 版 目 次

千崎古墳群

- 図版 1 1 5号墳石室南側（調査前、南から）
2 5号墳石室全景（前庭部調査前、南から）
- 図版 2 1 5号墳前庭部側壁上面検出状況（南から）
2 5号墳羨道閉塞状況（南から）
3 5号墳前庭部土層縦断面（南東から）
- 図版 3 1 5号墳前庭部（閉塞石取り上げ前、南から）
2 5号墳前庭部（閉塞石取り上げ後、南から）
- 図版 4 5号墳石室全景（南から）
- 図版 5 1 5号墳羨門床石（上が北）
2 5号墳前庭部左側壁（南東から）
3 5号墳前庭部右側壁（南西から）
- 図版 6 1 10号墳北側蓋石（接合後、表面）
2 10号墳北側蓋石（接合後、裏面）
3 10号墳棺身全景（上が北）
4 10号墳棺蓋（裏面）
5 10号墳棺蓋（表面）
- 図版 7 1 25号墳調査区全景（西から）
2 25号墳棺身全景（上が東）
3 25号墳棺内西側出土石材検出状況（北から）
4 25号墳西小口石材検出状況（西から）
- 図版 8 1 25号墳全景（断ち割り後、西から）
2 25号墳棺内断ち割り区土層縦断面（南から）
3 25号墳棺内断ち割り区土層横断面（北東から）

桐ノ木尾ばね古墳

- 図版 9 桐ノ木尾ばね古墳遠景（1：南から、2：北から）

挿 図 目 次

千崎古墳群

第1図	熊本県内玉類出土古墳分布図	(赤尾製図)	5
第2図	千崎古墳群の古墳分布図	(長田製図)	8
第3図	25号墳基準点の位置関係	(高濱製図)	9
第4図	5号墳調査区設定図	(柴田製図)	11
第5図	5号墳石室実測図	(一本製図)	13~14
第6図	5号墳閉塞石実測図	(田中製図)	15
第7図	5号墳閉塞石加工痕		15
第8図	5号墳石室前庭部と閉塞石	(汐除製図)	16
第9図	5号墳前庭部調査区平面図・断面図	(松崎製図)	17
第10図	5号墳調査区平面図・断面図	(赤崎製図)	18・19
第11図	10号墳北側蓋石破片散布状況図	(田中製図)	20
第12図	10号墳北側蓋石実測図	(筒製図)	21
第13図	25号墳調査区平面図・断面図	(田上製図)	23
第14図	「大矢野・松島地域」の石棺等の規模	(松尾製図)	25
第15図	「上島南半以南地域」の石棺等の規模	(松尾製図)	25

桐ノ木尾ばね古墳

第16図	桐ノ木尾ばね古墳の位置	(南製図)	31
第17図	桐ノ木尾ばね古墳と千崎古墳群		31
第18図	測量基準点の配置	(南製図)	32
第19図	測量調査風景(第3次調査)		34
第20図	測量調査風景(第4次調査)		34
第21図	桐ノ木尾ばね古墳周辺地形測量図	(中原製図)	35~36

表 目 次

千崎古墳群

第1表	熊本県内玉類出土古墳地名表(1)		6
第2表	熊本県内玉類出土古墳地名表(2)		7
第3表	2008年設置測量基準点の現場座標	(杉井作成)	9
第4表	2008年設置測量基準点の国土座標	(杉井作成)	9

桐ノ木尾ばね古墳

第5表	測量基準点の国土座標	(南作成)	32
-----	------------	-------	----

第 1 部

千崎古墳群第 7 次調査報告



千崎古墳群現地説明会風景